

令和4年5月20日

横須賀市長 上地克明 殿

緊 急 要 請 書

原子力空母母港化の是非を問う住民投票を成功させる会

共同代表	呉 東	正 彦
同	新 倉	裕 史
同	小 林	麻 利 子
同	今 野	宏
同	三 影	憲 一

5月18日に外務省より、横須賀市長に、米海軍横須賀基地に配備されている原子力空母レーガン以外の原子力空母が、米海軍横須賀基地に寄港することの説明がありました。

私達は、これについて、横須賀市長に緊急に以下のとおり要請し、回答を求めます。

1、米海軍横須賀基地を母港としない原子力空母が2年連続で寄港することは初めてのことで

本日、原子力空母レーガンが出航するので、寄港するのは、その直後になると思われ

ます。さらに、日本国内のコロナ感染者は、上下を繰り返し、政府としては外国からの入国を制限しているところに、一挙に多数の乗組員が上陸することです。

なぜ、この時期に、母港としない原子力空母が寄港するのでしょうか。

また通常、原子力艦の寄港の際説明されてきた、寄港の目的が今回説明されていません。

今回の寄港の理由、目的（補給、休養、修理、コロナ感染者の治療等々）について、また滞在期間の見込みについて、再度外務省に、また米海軍に照会して、市民に公表し

て下さい。

また、寄港に際して、原子炉は一旦停止されるのか、稼働したままなのか、照会して、市民に公表して下さい。

2、このような2年連続の、米海軍横須賀基地を母港としない原子力空母の寄港は、将来の原子力空母2隻体制化、ないし原子力空母の寄港の常態化に繋がりにかぬません。

現在も市民は年間に半年近く原子力空母の原子炉との同居生活を強いられています。また、いつ横須賀基地を、大地震や津波が襲うか分からず、母港としない原子力空母が度々寄港することは、それに遭遇して原子炉事故が発生する危険性を高めるものです。

従って、今回に寄港について、はっきり反対の意思を表明し、中止を求めて下さい。またそうでなくとも、市民の安全を守る立場から、懸念の意思を表明して下さい。

3、現在横須賀市内のコロナ感染者は上下を繰り返し、市や市民も、その中でやっと営業活動やイベントを再開しようとして、感染拡大防止対策に大変な努力をしています。

その中で、一挙に数千名の乗組員が上陸し、基地外に出ることは、感染拡大のある大変危険なことです。

昨年の原子力空母カールヴィンソンの寄港の際も、乗組員は上陸はしたが基地外には出ませんでした。また英空母クィーンエリザベスの乗組員は上陸せず、その他の英蘭艦の乗組員は上陸したが基地外には出なかったことに比較すると、前代未聞のことです。

従って市民への拡大防止対策として、寄港予定艦につき、乗組員が上陸せず、少なくとも基地外には出ないように、米海軍に申し入れるとともに、

- 1) 当該空母には、現在、コロナ感染者はいないのか、いるとすれば現在数、
- 2) 直前の航海上のPCR検査は、いつどのように行われてきたか。
- 3) 寄港、上陸時に、日本の検疫体制と同様に、PCR検査はしないのか。
- 4) 米軍関係者の日本入国時の14日間の移動制限は適用されないのか。

を至急米海軍及び外務省に問い合わせ、その内容を市民に公表して下さい。